



私のひとりごと

「不器用ならばもっと良い」

建築業界が大変な事になっている。「何が？」と言えば、消費税増税前の駆け込み受注で仕事が飽和状態となり、現場が工程通り進まないのである。外壁や基礎工事に至っては順番待ちで、当社でもお客様に随分ご迷惑をお掛けしている事をお詫び申し上げる。過去の増税時もそうであった。外壁サイディングに至っては品物の生産が追いつかず、人気のある商品と在庫分のみの選択となりお客様は好みの外壁を張れない事もあった。だが今回の場合は状況が違っている。商品は十分に流通しているが施工する職人さんが不足しているのだ。大工さんが手配できて基礎屋さんが順番待ちとか、基礎屋さんが手配できて屋根屋さんが順番待ちと言うふうに、トータルで仕事が回せない明らかな職人不足なのである。その理由を想像するに原因は3つ有ると思われる。1つは職人の高齢化で絶対数が減少した事。また1つは、長引く不況の中で多くの職人が転職した事。また1つは若い職人が育たない事である。



大工道具：かな（鉋）

私は大工職人として長く業界に親しんできたので大工さんに限って申し上げるが、技術を取得するにはそれなりの時間を要する。私が親方に弟子入りした当時（41年前）は、鉋（かな）研ぎ10年と言われ、くる日もくる日も刃物研ぎの毎日であった。「採用＝即戦力」の現代企業の考え方からすれば、気の遠くなる時間の流れである。木を扱う大工にとって、木に新たな命を吹き込む道具がノミや鉋の刃物である以上、技術以前に刃物が切れなければ良い仕事は出来ないのである。ところが現代の大工道具といえば、コンプレッサーやエアガン。インパクトに電動スライド丸鋸といった電気道具が主流で、小手先の器用さで使いこなせ、短期間でそれなりの仕事ができる。これらは確かに便利な道具ではあるが、はたしてどれ程お客様が感動する家造りが出来るのであろうか・・・？

私は過去に何人かの職人さんを育てようと試みたが、殆どが育てられなかった。ごく最近も若い職人さんを採用したが三月でリタイア。私の不徳の致すところは言うまでもないが、現代ならではの理由も存在すると思われる。今時の若者はとかく頭が良い。頭が良いので教わった事も頭で理解しようとし、納得の行かないことには意見もしてくる。その上器用であれば電気道具を使いこなし、それなりに仕事も出来ると錯覚する。その結果仕事を甘く考えてしまう。一時の所は良いようにも思われるが、逆境に耐えられる心が育たず些細な事で挫折してしまうのである。還暦を間近に迎える私ではあるが、日本に木造住宅が存在する以上、お客様が木を使った住宅を求める以上は、熱き職人魂を伝えたいと願ってやまない。来たれ！「アホで不器用な若者達！」



大工道具：ノミ（鑿）

ここで話しを終えると誤解を招くので補足するが、「アホ」とは「バカ」ではなく「素直」と言う意味だ。素直な人は、まずは人の教えを受け入れようと努力する。一見信念の無い様にも思われるが、素直な人は時間が掛かるが正確な技を身に付ける。その上不器用ならばもっと良い。器用な人は一時の処伸びるが、器用さに溺れ努力を怠る。反対に不器用な人ほど、満足な仕事を追い求めようと粘り強く努力し、これも時間は掛かる分自然に技術と忍耐の心が養われていく。どうやら技を身に付けるに近道は無く、職人の技術は頭で覚えるものでもなく、身体に記憶させる事である。事実、私は現役からしばらく遠ざかっているが今すぐにも鉋も研げるし、現場で仕事も出来る。きっと死ぬまで記憶しているものと思われる。

さて今年も最後の月に成ってしまいました・・・。やり残した事だらけではあるが、私も来年は年男。干支の馬のように更なる重荷を背負って走りたくと思います。今年も一年間、ご愛読ありがとうございました。どうぞ良いお年をお迎えください。

ではまた来年もお会いしましょう。
今年も最後まで読んでいただき・・・、

あーがしう
ございました!!

